

令和7年度全国学力・学習状況調査ならびに

令和7年度大分県学力定着状況調査の結果と分析について

由布市教育委員会

本年度、4月17日に実施された「令和7年度全国学力・学習状況調査」ならびに、4月22日に実施された「令和7年度大分県学力定着状況調査」の結果についてお知らせいたします。

1 学力調査結果の分析

(1) 小学校における学力の状況

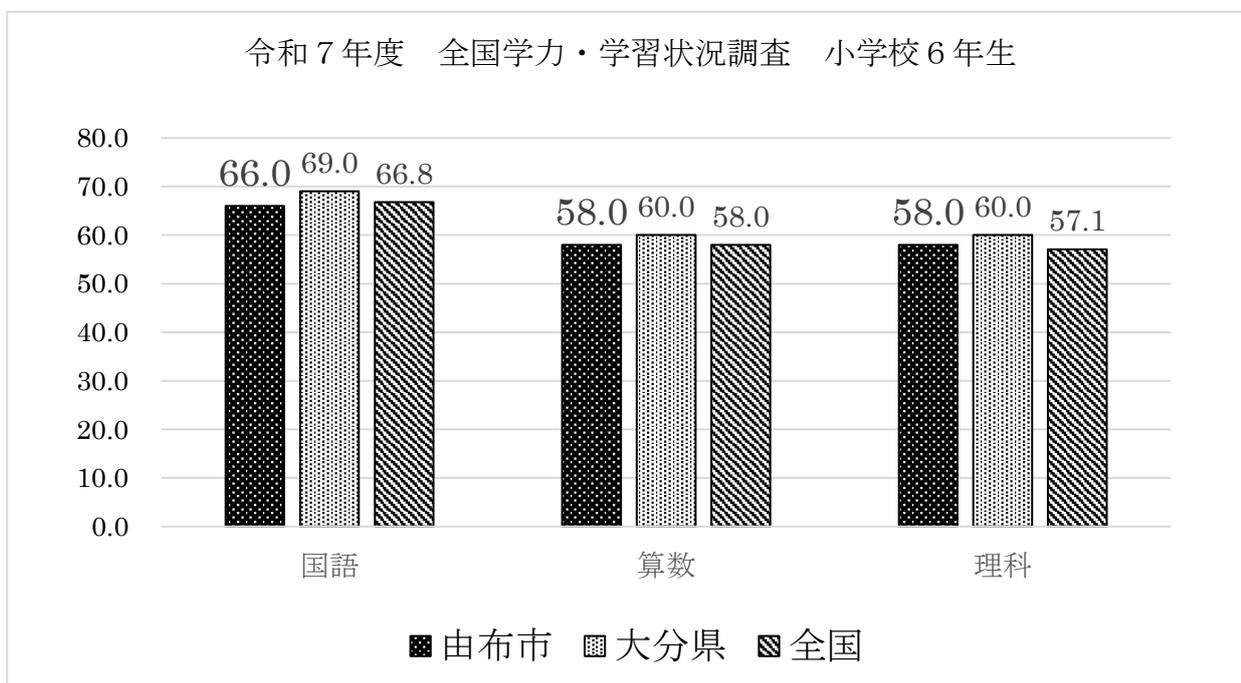
「令和7年度全国学力・学習状況調査」＜図1参照＞

小学校第6学年では、国語・算数・理科の調査が実施されました。

○全体の平均正答率は、全国平均と同程度、県平均を若干下回る結果となりました。

○観点別平均正答率では、「知識・技能」は全ての教科で全国平均を上回り、「思考・判断・表現」では、理科が全国平均を上回っています。

＜図1＞ 教科別正答率「小学校6年」 ※棒グラフは左から由布市、県、全国



「令和7年度大分県学力定着状況調査」＜図2参照＞

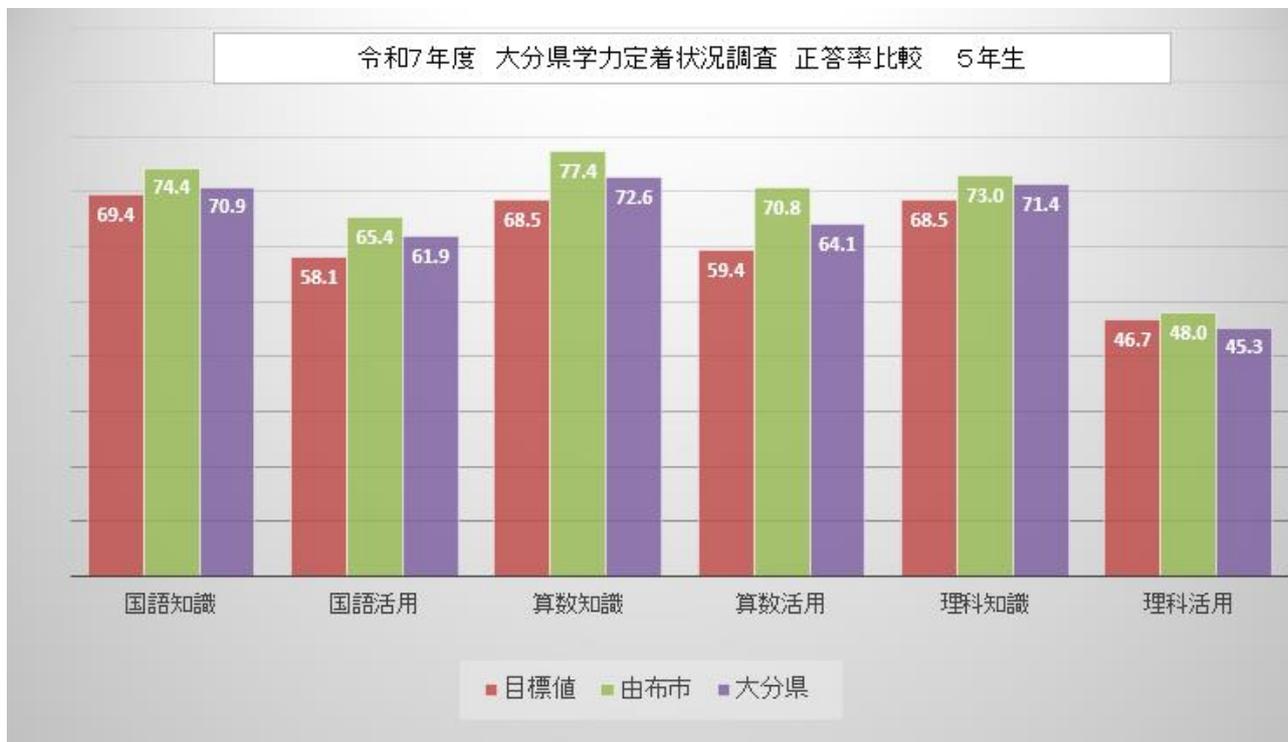
小学校では、第5学年で、国語・算数・理科の調査が実施されました。

○5年生では、国語の知識と活用、算数の知識と活用、理科の知識と活用の全ての項目において「目標値^{※注1}」を超えました。

○また、全教科の全項目において、県の正答率を超えました。

※注1 学習指導要領に示された内容について、正答できることを期待した児童生徒の割合。
多くのデータを基に、テスト作成業者が算出したもの。

<図2> 教科別正答率「小学校5年」 ※棒グラフは左から目標値、由布市、大分県



「小学校における学力向上計画」

① 小学校低学年から取り組む学力向上

由布市では、全国学力・学習状況調査、大分県学力定着状況調査、由布市学力調査の結果を分析し、弱点補強に計画的に取り組んでいます。

小学校1年生から「学習の理解」とともに「学習の仕方」を身につけることを目指し、「めあての提示」や「振り返りの位置付け」、一人1台端末を活用した話し合いや情報共有などの授業改善を進めた結果、協働的な学びや主体的に学ぶ姿が定着してきています。一方で、読解力や計算力といった基礎技能の向上は課題であり、低学年からの系統的な取組を継続しています。

今後も、「主体的・対話的で深い学び」を全学年・全教室で実現し、確かな学力の定着を図ります。

② 学力調査の結果分析をもとにした授業改善（▲は全国学調、△は県学調）

【課題となる項目】※全国平均正答率・目標値より5ポイント以上低かった項目

<国語>

▲目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる。

△調べたことをもとに文章を書く。

<算数>

- ▲棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる。
- ▲△伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述する。

<理科>

- ▲顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる。
- △星の明るさ、位置や見え方について理解している。

【課題解決に向けて】 (●は全国学調、○は県学調)

<国語>

- 多面的に情報を扱う→複数の情報をマッピングする練習
意見の共通点・相違点を比べる比較表などを活用
- 小学校国語「書くこと」の領域で、自分の考えとそれを支える事例との関係を明確に書けるようにするためには、子どもたちが「考え(意見)」と「事例(理由・根拠)」を意識的に区別・関連付けて構成する力を養う活動を、段階的に仕組むことが必要。

<算数>

- グラフ作りと説明活動の組み合わせ
→児童が自分で集計→棒グラフ化→「関係性を含めた説明文」を発表。
例：「A チームと B チームでは○○が2倍違う」「年々増えている」など。
- 表の数値を横に関連付けてみたり、縦に関連付けてみたりすることで、一方が○ずつ増えたときに、他方は◇ずつ増えるなどの変化の特徴や、一方に○を加えると他方と等しくなるなどの対応の特徴を見いだすことができるようにする。

<理科>

- 指導改善としては、実際の顕微鏡を用いて教師が具体的な操作方法を示したり、教科書等を活用したりして、適切な操作について理解させることが大切である。また、一連の操作を各自が体験できるよう環境を整備し、全ての児童に顕微鏡を操作する時間が保証されていることも大切である。例えば、第6学年においても、「B(1)人の体のつくりと働き」の学習における「メダカの尾びれの血流の観察」や「B(2)植物の養分と水の通り道」の学習における「植物の葉の気孔の観察」などにおいて、顕微鏡を使用する機会を設定して再度、操作方法について確認していく学習活動が考えられる。
- 星座アプリやインターネット上のプラネタリウムで夜空を再現し、実際の星座の動きや見え方を観察する。
- 授業の中で子どもたちの興味関心を高め、実生活の中で意識できるように動機づけを行うことが大切。

これらの課題解決に向けた補充学習の取組や教科担任制の取組、指導教諭・授業力向上アドバイザーといった学力向上に特化した教員からも発信し、組織的に取り組めるようにしていきます。

(2) 中学校における学力の状況

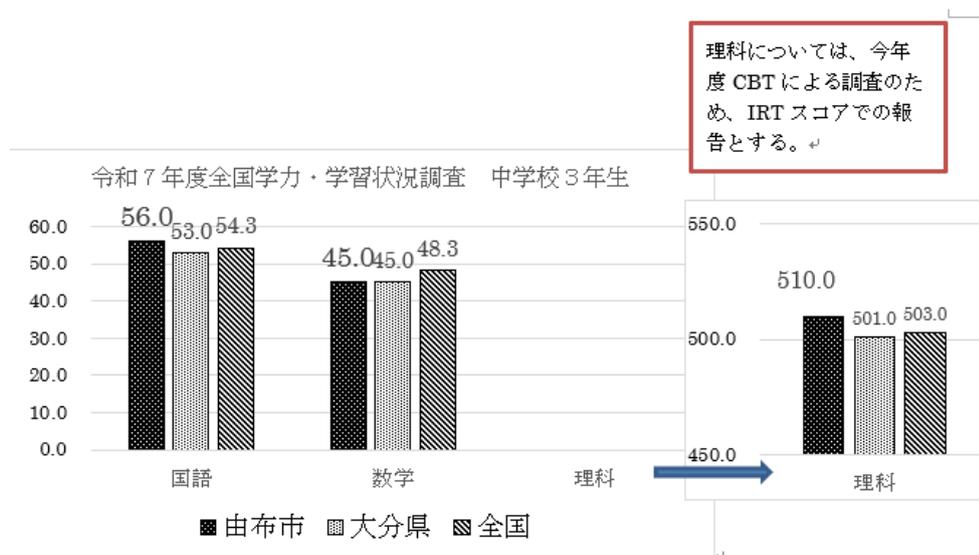
「令和7年度全国学力・学習状況調査」＜図3参照＞

第3学年で、国語・数学・理科の調査が実施されました。「理科」については、CBTによる調査（パソコンやタブレットを使って画面上で問題に答える調査）が実施されました。国語・数学の正答率とは表現方法が異なります。

○国語・理科については、全国・県の平均値を上回り、数学については、県と同程度となりました。（正答率）

○「知識・技能」「思考・判断・表現」の各観点では、理科がどちらも全国・県平均を上回っています。

＜図3＞ 教科別正答率「中学校3年」 ※棒グラフは左から由布市、県、全国



「令和7年度大分県の学力定着状況調査」＜図4参照＞

中学校では、第2学年で国語・社会・数学・理科・英語の調査が実施されました。

○目標値と比較すると、国語知識・活用、理科知識が目標値を上回っています。県の正答率と比較すると、数学知識・活用、英語知識が上回っています。

○偏差値で結果を見ると英語活用以外は全て偏差値50を上回っています。

＜図4＞ 教科別正答率「中学校2年」 ※棒グラフは左から目標値、由布市、大分県



「中学校における学力向上計画」

① 小学校から引き続く学力向上

小学校の部分でも記述したとおり、中学校においても「学習の仕方」を身につけていくことがここ数年の課題です。

授業における話し合い活動（協働的な学習）の充実は、中学校の授業でも活用されており、子どもの主体的な学習の姿が確立されてきています。一方、小学校と同様、問題の読解力（速く読み取る力・要約力や情報処理能力）については、現状では改善できていません。このことは、小学校段階でさらに重点的に取り組む必要があるとともに、中学校においても継続して取り組んでいかなければなりません。

② 学力調査の結果分析をもとにした授業改善（▲は全国学調、△は県学調）

【課題となる項目】※全国平均正答率・目標値より5ポイント以上低かった項目

<国語>

▲ ※該当項目はありませんでした。

△文章の内容について叙述を基にとらえている。

△目的に応じて必要な情報に着目して、内容を解釈している。

<社会>

△地球儀や地図を活用し、世界と日本の位置や特徴（大陸・海洋の分布、日本の位置・範囲、緯度経度、国旗の特色）を的確に理解している。

△古代から中世にかけての国内外の歴史的事象や文化を理解し、資料を活用して判断している。

<数学>

▲事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげるができるかどうかをみる。

▲統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる。

△与えられた文章題に対して、適切な一元一次方程式を立式することができる。

△長方形の辺上を動く点を頂点とする三角形の面積の変化の様子を式に表し、 y の値から x の値を求めることができる。

<理科>

▲ガス警報器の設置場所が異なる理由を考える学習場面において、実験の様子と、密度に関する知識および技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈できるかどうかをみる。

△物質が金属であるかどうかを判断するための実験方法として適切でないものを指摘できる。

△火山活動や地層の特徴から、自然現象の仕組みや過去の環境変化を理解・推測できる。

<英語>

△対話文を読み、対話の流れと資料から、必要な情報を把握して、適切な英文を選ぶ。

△対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている。

【課題解決に向けて】（●は全国学調、○は県学調）

<国語>

- 文章を正確に把握し、必要な情報を正確に取り出すことが必要となる。
 - ・段落ごとの要旨を短文でメモさせる。
- 「調べて分かったこと→事実をもとにして考える」の流れのように、授業で使用する言葉と活動を一致させること、意識することが日常生活で必要。

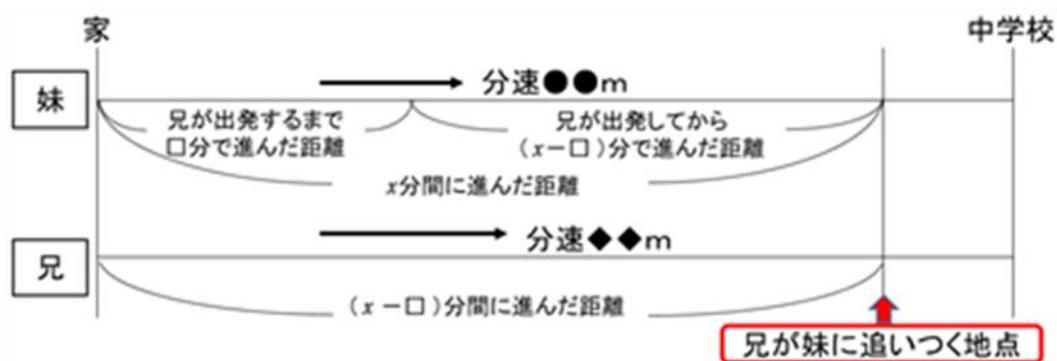
<社会>

- 資料読み取りの流れを定型的に示し、習慣化する。
「何が書いてあるか（事実）」→「なぜそうなのか（理由・背景）」→「どう考えるか（自分の考え）」という三段階の問いかけを定着。
- 歴史では人物の立場や背景に立って考える活動。
戦国大名や平安・室町の暮らしに関して、「ある人物になりきる」「その人物の考えを想像して記述する」といった活動を通じて、資料の意味を主観的に捉える経験を増やす。

<数学>

- 式化と状況化の往復練習で意味理解を定着。
- 教師が意図的に不備のある証明を提示（図がない・理由不足など）。
グループで改善案を作成し、黒板に貼って発表。
観点（根拠の明確さ、論理の順序、条件の活用）を板書してから評価活動に入る。
- 長文問題を見て諦めてしまう生徒には、長文問題でも筋道を追って考えていけば、理解できる経験とその方法を学習することが必要。
- 「なぜこの操作でよいのか」を説明させ、移項の意味理解を図る。
解法の複数の方法（移項・両辺に同じ数を加えるなど）を比較させる。
- 問題文を図・表・線分図などに「見える化」する活動を強化。
「問いにする→式にする→計算する→答える」の4段階を意識。
身近な事象（買い物や時間計算など）を教材化し、式にする経験を豊富に。

A 図に表し、問題を可視化する方法



B 表に表し、問題を可視化する方法

	速さ(m/分)	時間(分)	道のり(m)
妹	●●	x	●● $\times x$
兄	◆◆	$x - \square$	◆◆ $\times (x - \square)$

- 点が動く様子を実演・アニメーション・動画等で示し、イメージを形成。
「xとyを求め合う」双方向の関係を意識した活動（ $x \rightarrow y$, $y \rightarrow x$ ）。
三角形の面積公式に着目し、変化と面積の関係を導く過程を丁寧に扱う。

<理科>

- 指導改善としては、密度の理解と生活場面への応用を学びの過程に沿って体験的に学習を行うようにする。
 - ①見える実験・・・密度が異なる気体を色付きバルーン等で可視化して観察。
 - ②推論練習・・・「もしこのガスが漏れたら、警報器は上と下どちらに付ける？」と問い、理由を説明させる。
 - ③考えるプロセスを意識した単元プラン
実験観察→結果の整理（表・グラフ）→密度表との照合→設置位置の推論、という思考の流れを明示。特に「なぜそう考えるか」の理由記述を重視。
- 実験の目的と手順を明確にさせる探究型学習の導入（例：「電気を通す物質はすべて金属か？」といった問いを立てる）。
「誤った方法」も含む複数の実験計画を提示し、比較・評価させる活動。
ICTを活用して、実験動画から条件の違いを見分けさせる活動。
- 火山模型や映像資料を用いて、火山ごとの特徴の視覚化。
因果関係に着目した表（例：「ねばりけ」「噴火のしかた」「溶岩の色」の対応表）を作成。
火山図鑑・資料集からの情報収集を行い、比較・説明する学習。
水槽実験で粒の大きさによる堆積の違いを観察させ、現象を可視化。
層の違いを読み取るシミュレーション教材を活用し、複数の地層の比較をさせる。

<英語>

- 聞き取り時に情報の種類別にメモ（人・場所・時）
表や予定表から英文を作る活動
資料→会話文作成など、複数情報の統合練習
- 意見表現カード（I think～, because～）を活用
who疑問文作成ゲーム、穴埋め会話練習
聞いた情報を基に短文作成→ペアで交換し質問

【全教科共通の取組】

*全国調査および県調査から考えられる由布市共通の取組

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○学校全体で統一した取組 ○授業改善の充実 ○ていねいな家庭学習・補充学習 |
|---|

*上記3点の取組を今後も実施するとともに、小・中学校の連携や学年・教科を超えた組織的な学力向上の取組も行っていきます。
授業改善と補充学習の取組をいかに充実させていくかが重点であると捉えています。

2 意識調査結果の分析

(1) 全国学力・学習状況調査の児童・生徒質問紙からわかる状況

全国学力・学習状況調査では、児童・生徒に様々な質問をしています。その様子からも、学習習慣や生活習慣が推測されます。注目すべき点を紹介することで、保護者や地域の皆様にも知っていただき、よりよい学習習慣や生活習慣の形成に役立てたいと考えています。

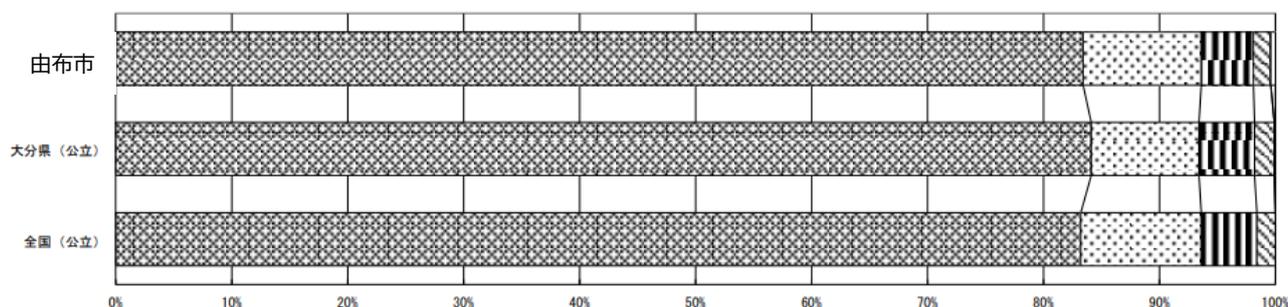
「小学校における学習習慣・生活習慣の状況」

小学校6年

①基本的な生活習慣について

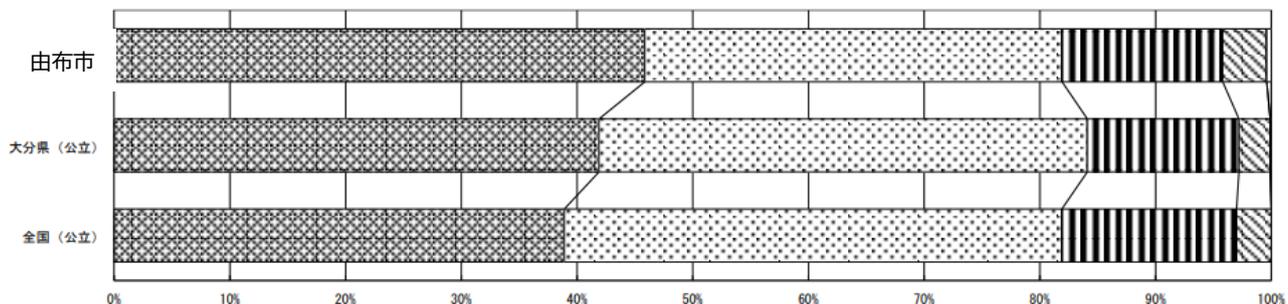
Q 1. 朝食を食べていますか。

1. している 2. どちらかといえば、している 3あまりしていない 4 全くしていない



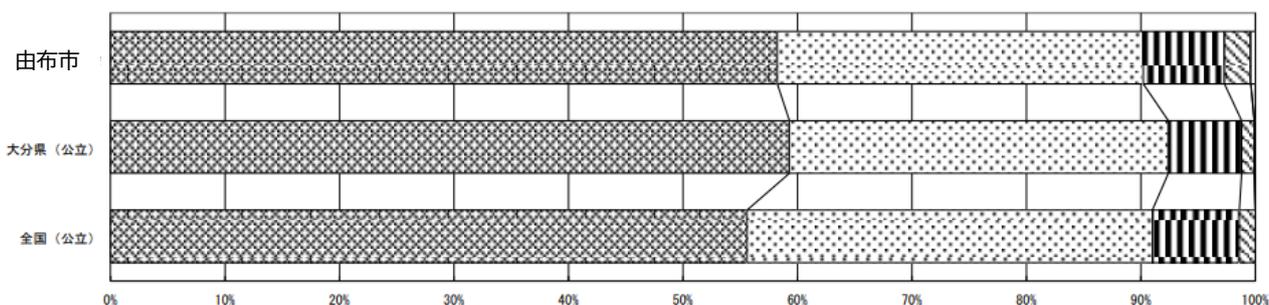
Q 2. 毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。

1. している 2. どちらかといえば、している 3あまりしていない 4 全くしていない



Q 3. 毎日同じくらいの時刻に起きていますか。

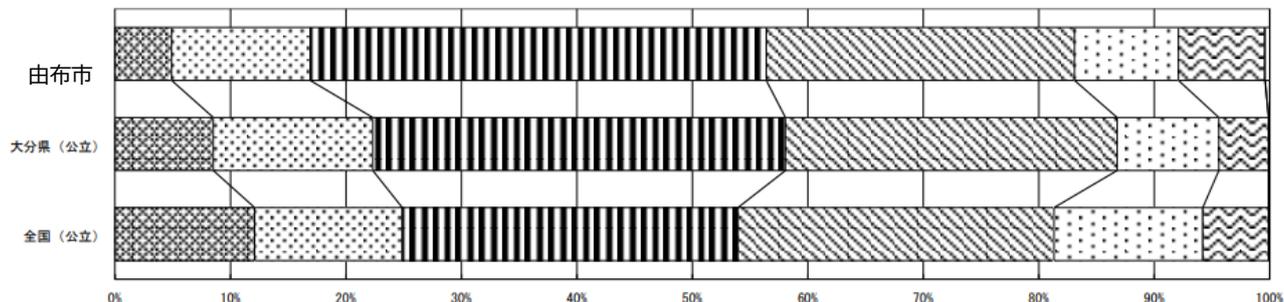
1. している 2. どちらかといえば、している 3あまりしていない 4 全くしていない



②学習習慣について

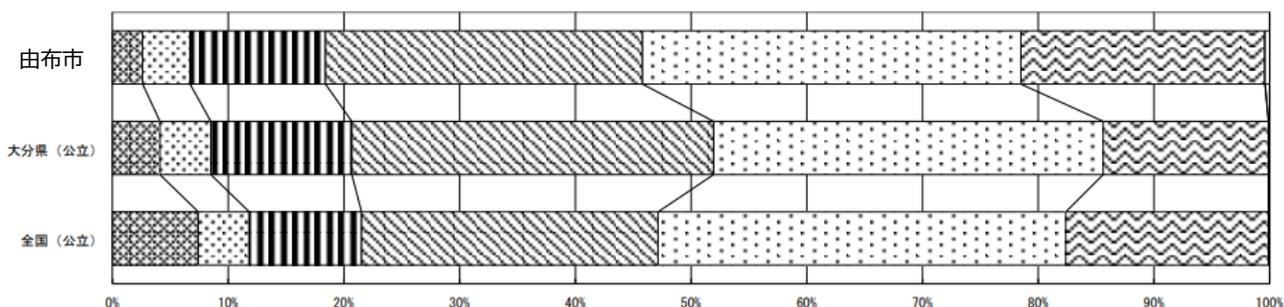
Q 4. 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

1. 3時間以上 2. 2時間以上、3時間より少ない 3. 1時間以上、2時間より少ない 4. 30分以上、1時間より少ない



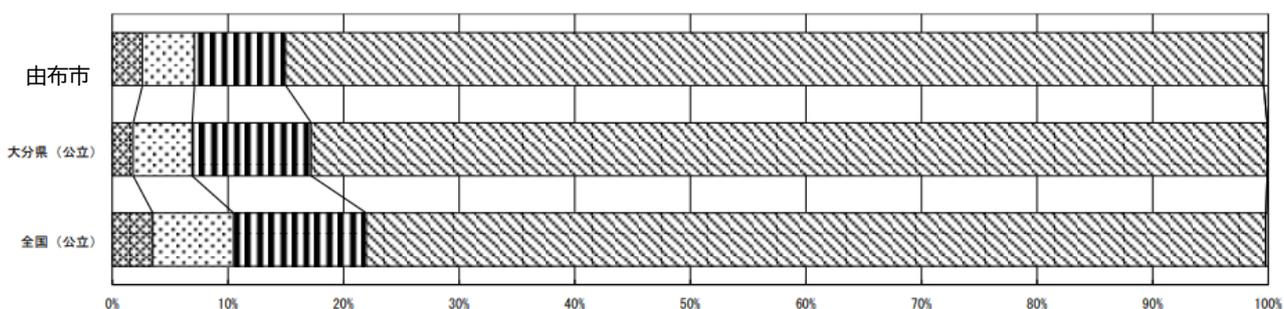
Q 5. 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

1. 4時間以上 2. 3時間以上、4時間より少ない 3. 2時間以上、3時間より少ない 4. 1時間以上、2時間より少ない
5. 1時間より少ない



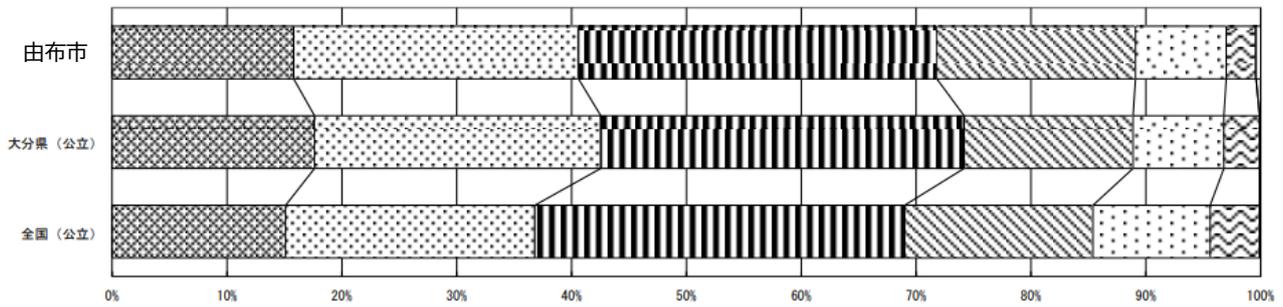
Q 6. 新聞を読んでいますか。

1. ほぼ毎日読んでいる 2. 週に1~3回程度読んでいる 3. 月に1~3回程度読んでいる 4. ほとんど、または、全く読まない



Q 7. あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか。(雑誌、新聞、教科書は除く)

1. 0～10冊 2. 11～25冊 3. 26～100冊 4. 101～200冊 5. 201～500冊 6. 501冊以上 7. その他

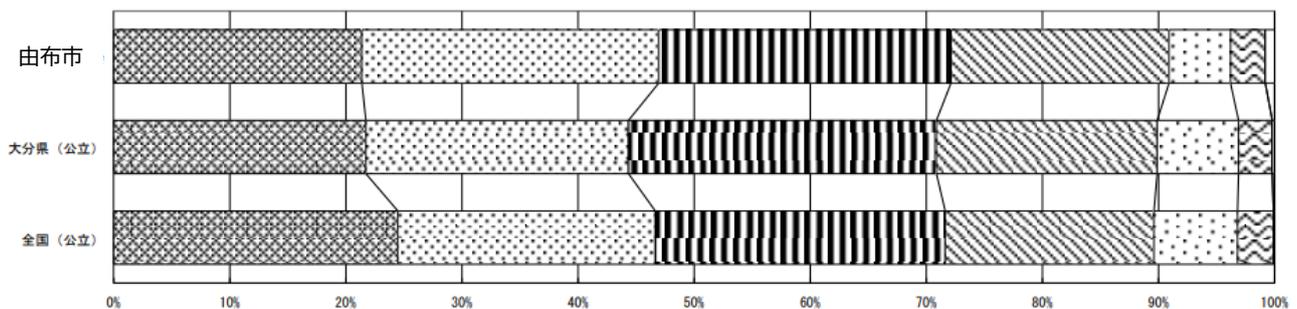


* 「定期的に新聞を読むこと」については、「読まない」児童の割合が、県や国と比べて高いと言えます。新聞については、各家庭で購入していない場合もあるので、様々な場面で新聞に触れさせる必要があると考えます。読書に関する項目については、「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか」については、県に比べると少ないものの、全国とは同程度でした。学校図書館や地域の図書館の利用をしている児童も多いので、自分が通う小学校だけでなく由布市図書館、そして県立図書館の利用も進めていきたいものです。並行して、授業等で図書館を活用したり、新聞を活用したりする学習を取り入れ、低学年のうちから、本に親しむ環境作りの大切さを保護者にも啓発していくことも引き続き必要だと言えます。

③1人1台端末の活用について

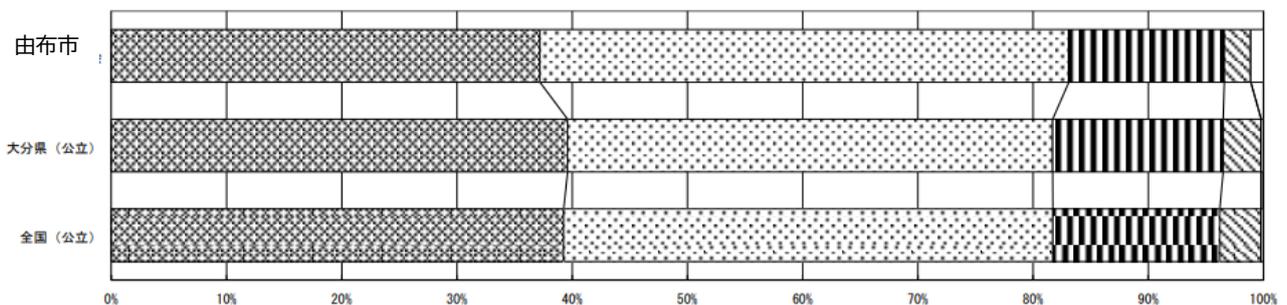
Q 8. 5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

1. ほぼ毎日(1日複数回) 2. ほぼ毎日(1日1回) 3. 週3回以上 4. 週1回以上
5. 月1回以上 6. 月1回未満



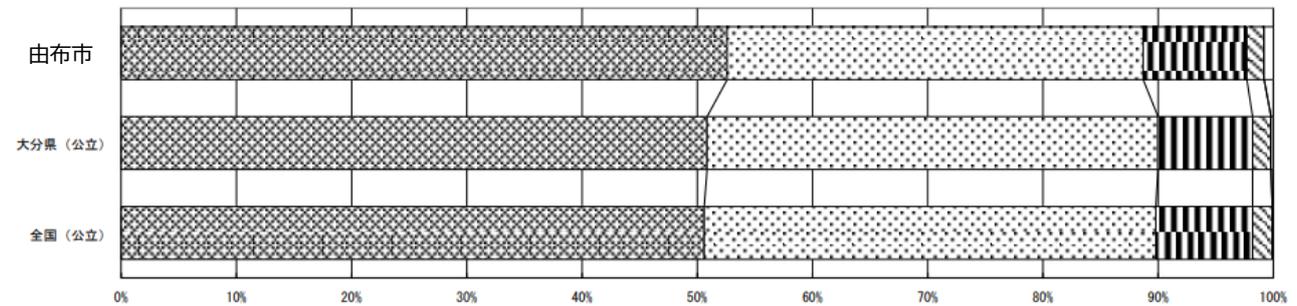
Q 9. あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができますか。

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない



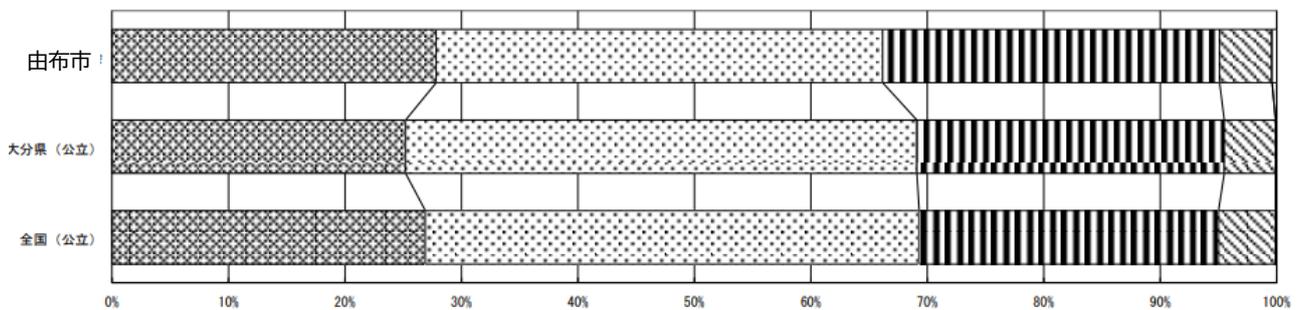
Q10. あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか。

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない



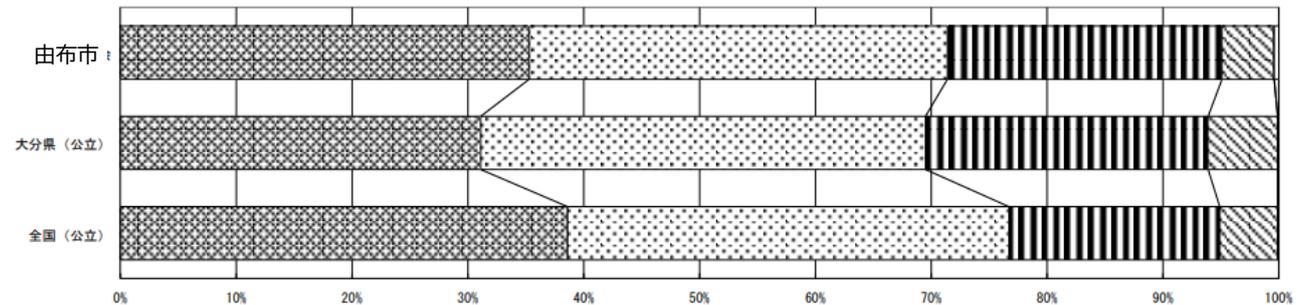
Q11. あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか。

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない



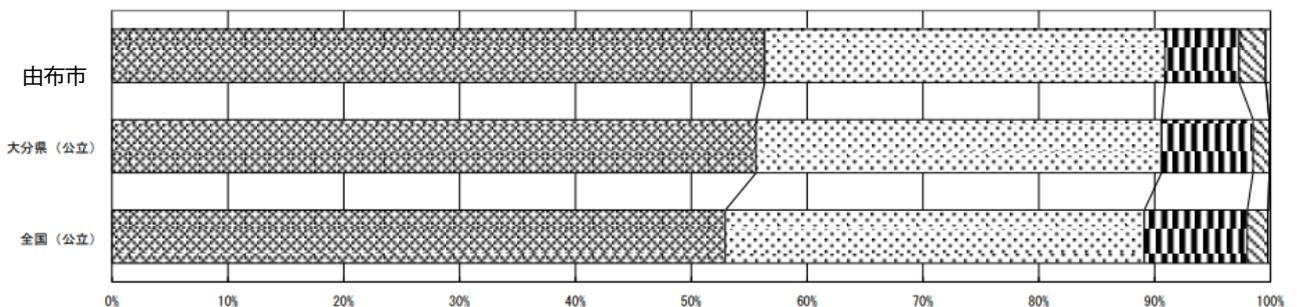
Q12. あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない



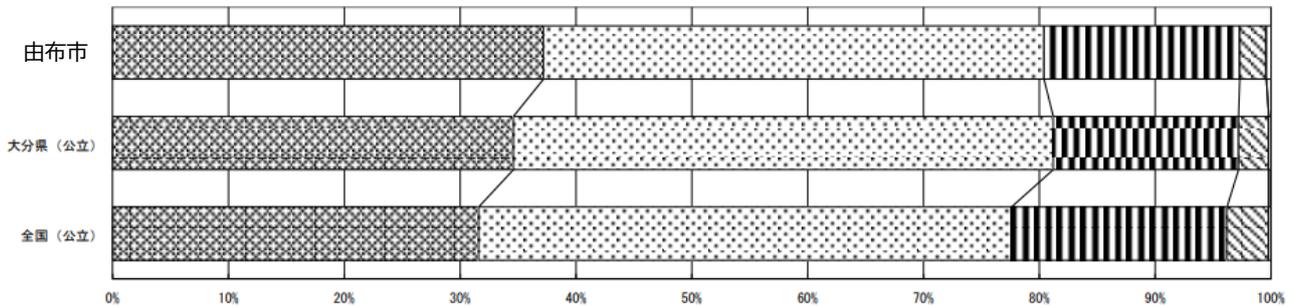
Q13. 5年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（2）分からないことがあったときに、すぐ調べることができる。

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない



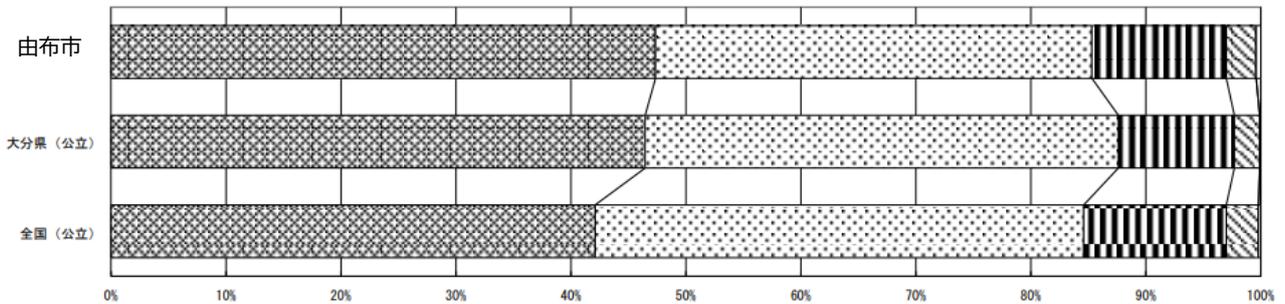
Q14. 5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(5) 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない



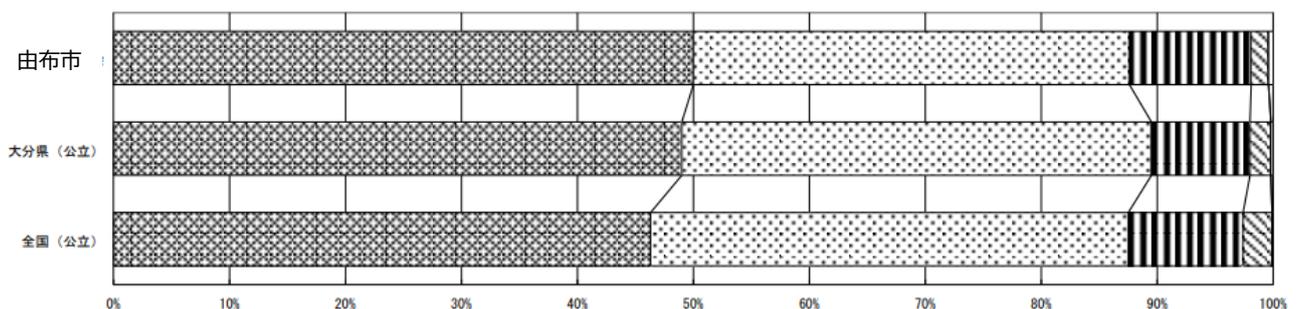
Q15. 5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(6) 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない



Q16. 5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(7) 友達と協力しながら学習を進めることができる。

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

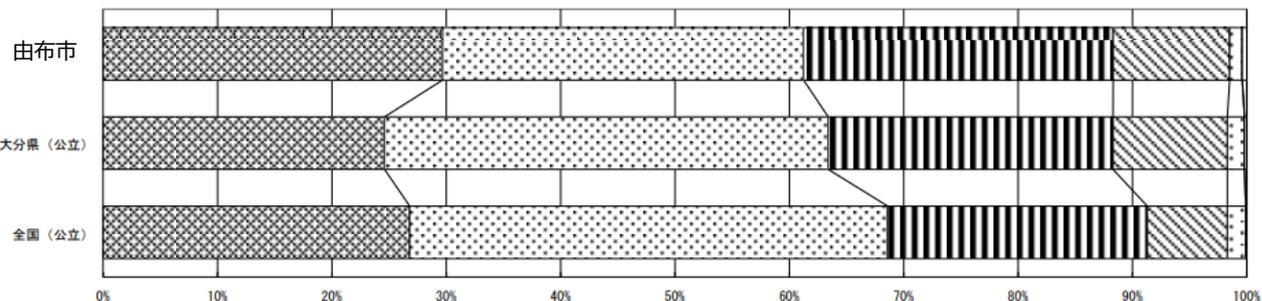


* 1人1台端末の活用については、導入以降、授業の中で積極的に使用する場面が増えている。自分で調べる、意見を伝える、意見を共有する、友達と協力して学習を進めるなどの活動は全国平均より高い水準となっている。こうしたことから、端末は普段の授業の中で積極的に活用され、児童の学習道具として着実に定着しつつあると考えられる。今後は、さらに有効的な使い方や効果的な使用場面を現場の先生方と共有し、学習効果を最大化する工夫を重ねていく必要がある。

④学習意欲等について

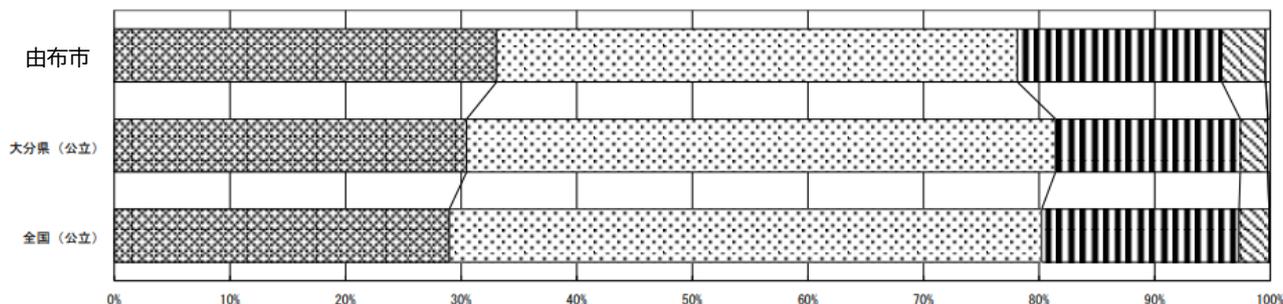
Q17. 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

1. 発表していた 2. どちらかといえば、発表していた 3. どちらかといえば、発表していなかった
4. 発表していなかった 5. 考えを発表する機会はなかった



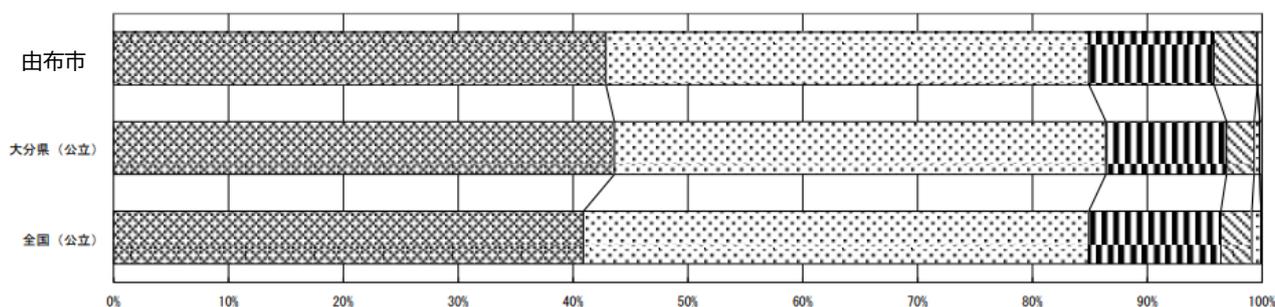
Q18. 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない



Q19. 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない
4. 当てはまらない 5. 学級の友達との間で話し合う活動を行っていない

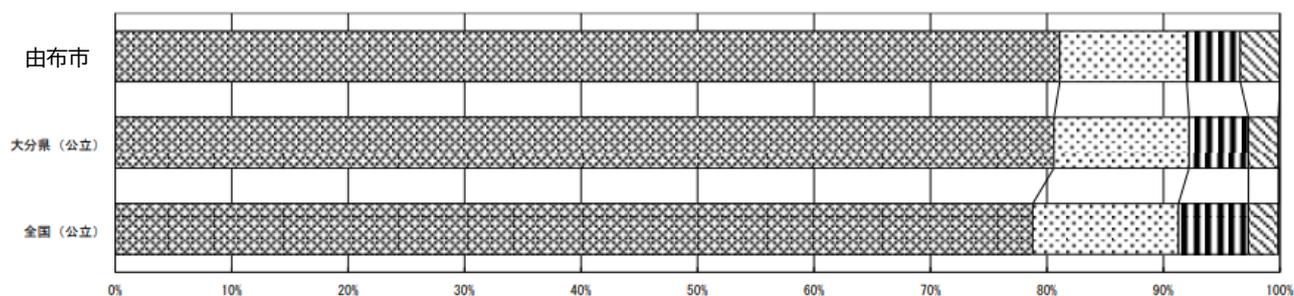


* 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」という意識が高い。また、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表した」という意識は、全国より高くなってきている。学習したことを活かしながら、自らの学習を深めていることがうかがえる。と同時に各学校における授業がつながりのあるものになっていることがうかがえる。

①基本的な生活習慣について

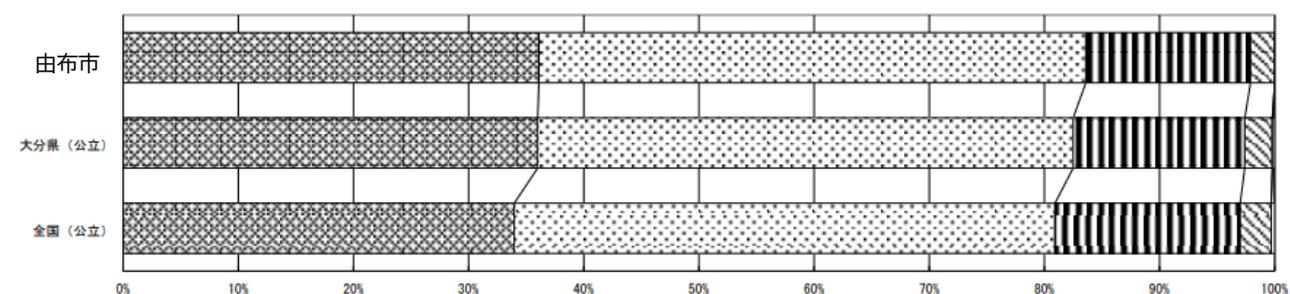
Q 1. 朝食を毎日食べていますか。

1. している 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない



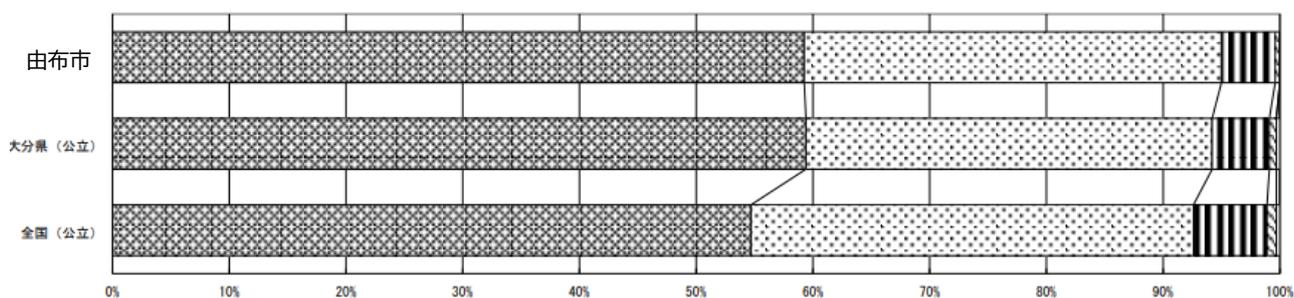
Q 2. 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

1. している 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない



Q 3. 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

1. している 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない

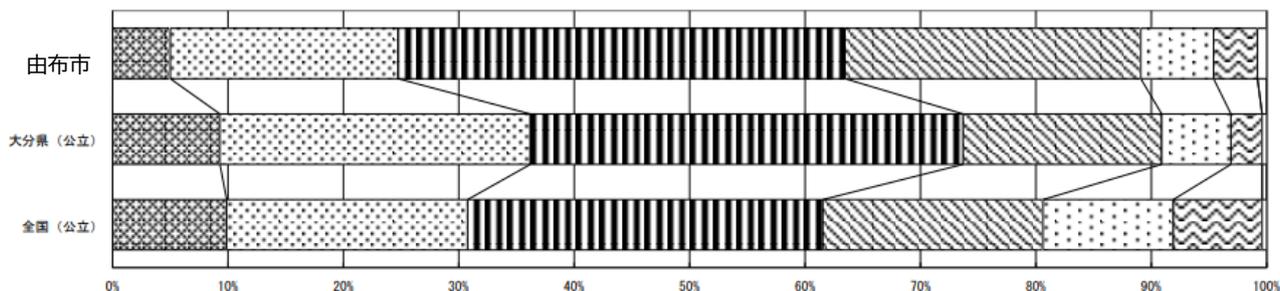


*上記3項は、全国よりも高い。しかし、本市の割合としては、昨年度よりやや低くなっている。これらの項目は、学習はもちろん、心身の成長に関わるものであるため、家庭の協力も得ながら、進めていきたいと考える。

②学習習慣について

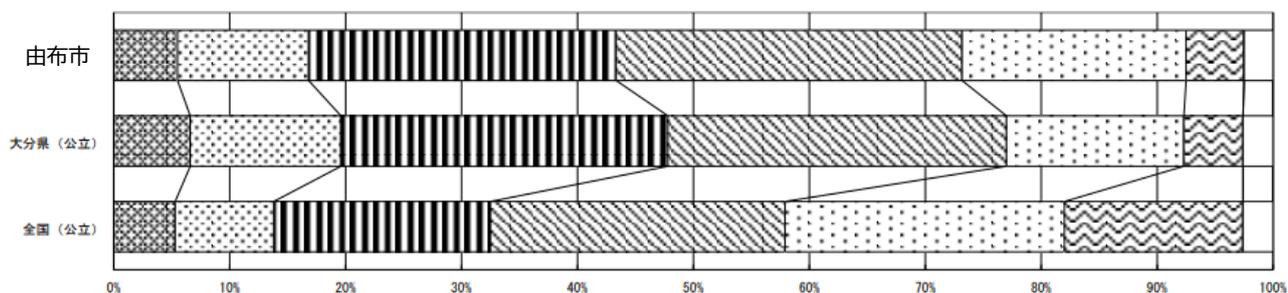
Q 4. 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

1. 3時間以上 2. 2時間以上、3時間より少ない 3. 1時間以上、2時間より少ない
4. 30分以上、1時間より少ない 5. 30分より少ない



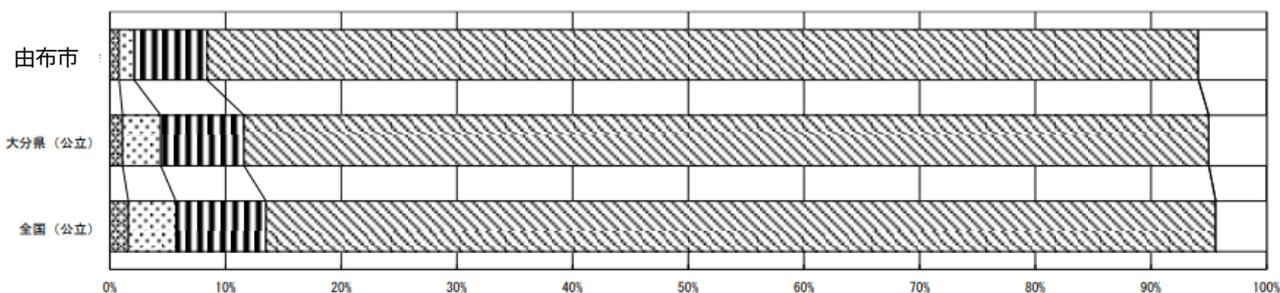
Q 5. 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

1. 4時間以上 2. 3時間以上、4時間より少ない 3. 2時間以上、3時間より少ない
4. 1時間以上、2時間より少ない 5. 1時間より少ない



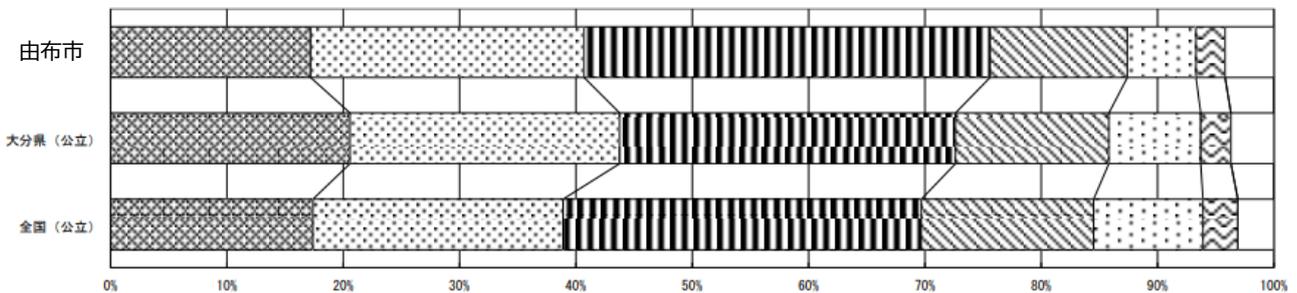
Q 6. 新聞を読んでいますか。

1. ほぼ毎日読んでいる 2. 週に1～3回程度読んでいる 3. 月に1～3回程度読んでいる
4. ほとんど、または、全く読まない



Q 7. あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか。(一般の雑誌、新聞、教科書は除く)

1. 0～10 冊 2. 11～25 冊 3. 26～100 冊 4. 101～200 冊 5. 201～500 冊 6. 501 冊以上

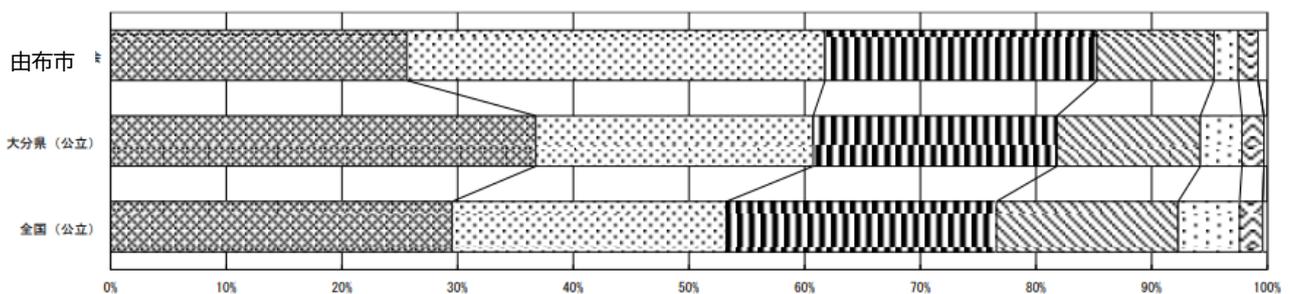


* 平日の勉強時間については、全国・県より低い傾向が見られた。また、休日の勉強時間については、全国よりも高いものの県よりは低い。県に着目してみると、由布市の生徒は、全体的に、平日・休日ともに勉強時間が少ない傾向があると考えられる。新聞を読む生徒の割合は、県や全国と同程度であった。新聞を読む機会が減っていることもあるので、授業等、様々な場面で新聞に触れる機会を設ける必要があるのではないかと感じる。家庭にどのくらいの本があるかという項目については、全国と同程度であるが、県よりは低い。家にある本が少ないから読書量が少ないと一概には言えないが、学校図書館をはじめ、市立図書館・県立図書館の利用は推進していく必要があると言える。

③1人1台端末の活用について

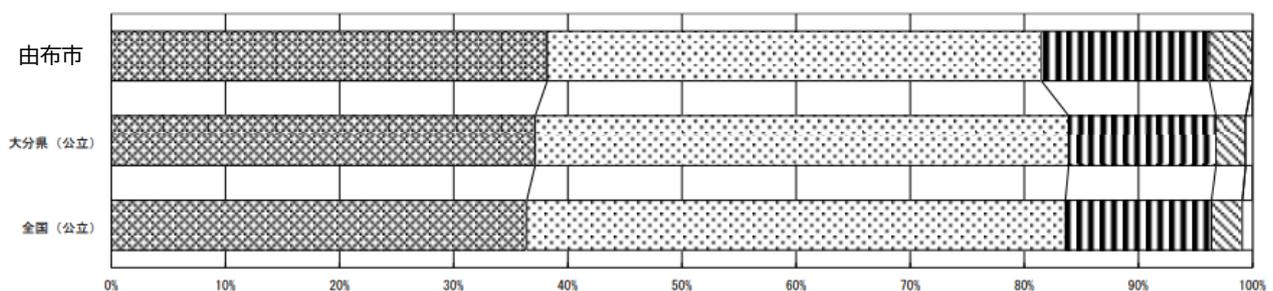
Q 8. 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

1. ほぼ毎日 2. 週3回以上 3. 週1回以上 4. 月1回以上 5. 月1回未満



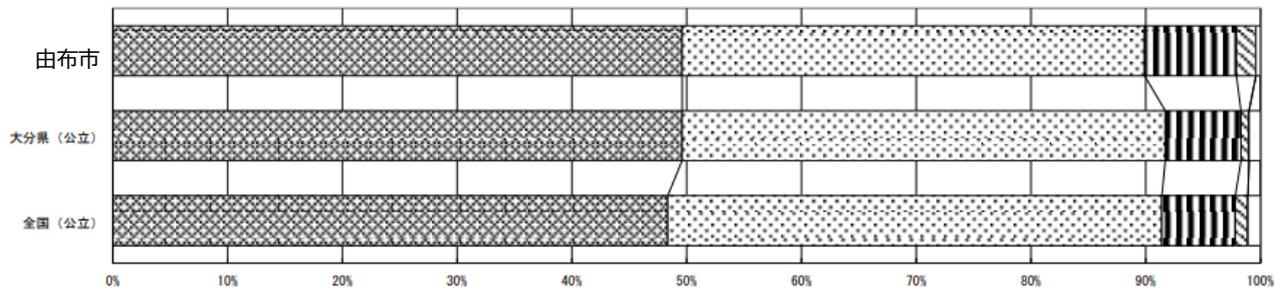
Q 9. あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができますか。

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない



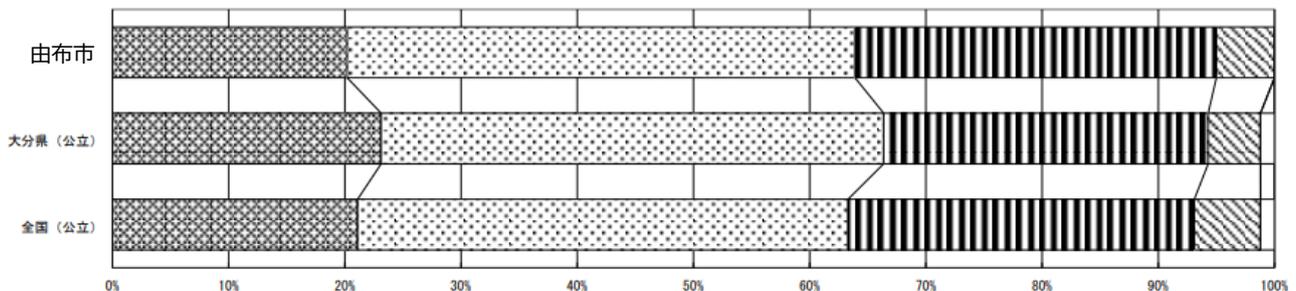
Q11. あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか。

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない



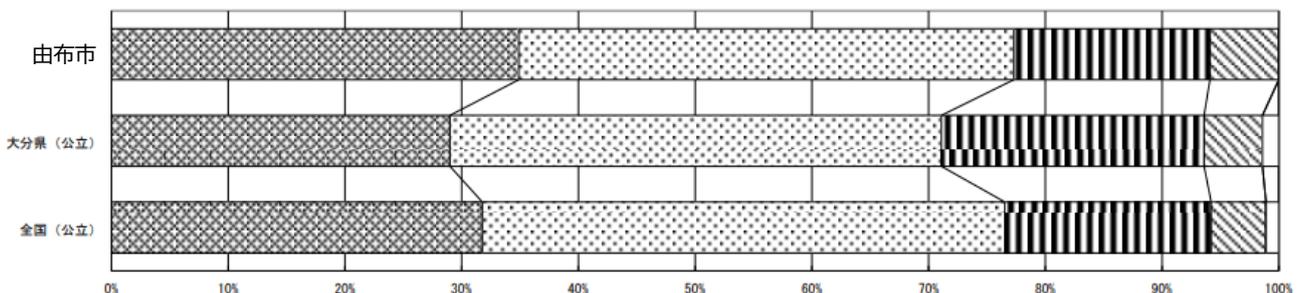
Q12. あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか。

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない



Q13. あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

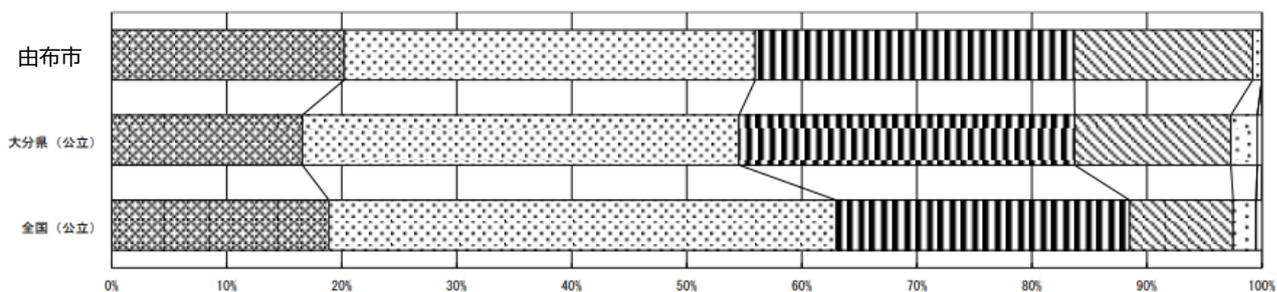


*端末の活用については、昨年度より使用頻度が上がり、それに伴い自己のスキル判断も上昇している。全国学力調査の分析事例でも示されているように、「調べる」「まとめる」「意見を共有する」など主体的な学びの場面で端末を効果的に活用することが、学習意欲や理解の深化に寄与していることがうかがえる。日常的に端末を活用して授業が進められていることが分かり、今後も、子どもたちの学びをさらに深めることが期待できる。一方で、情報の信頼性の判断や端末を使い分ける力、協働的な活動での適切なコミュニケーションなど、情報活用能力の質的な向上が課題となる。

④学習意欲等について

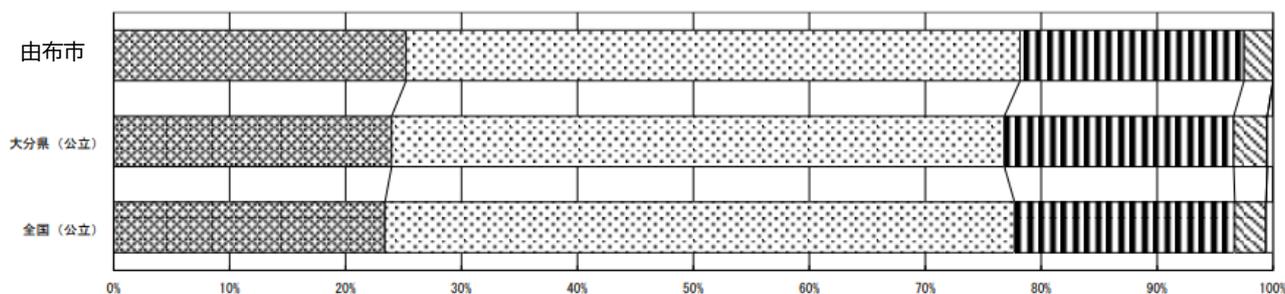
Q14. 1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

1. 発表していた 2. どちらかといえば、発表していた 3. どちらかといえば、発表していなかった
4. 発表していなかった 5. 考えを発表する機会はなかった



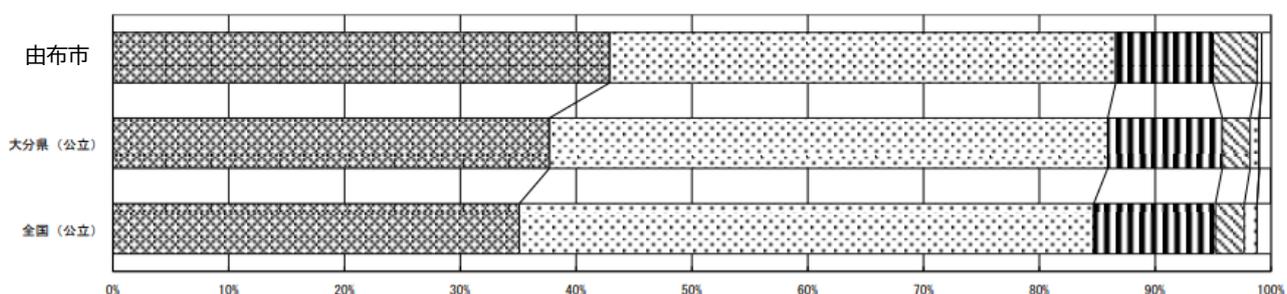
Q15. 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない
4. 当てはまらない



Q16. 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない
4. 当てはまらない 5. 学級の生徒との間で話し合う活動を行っていない



*全国学力調査生徒質問紙の結果を見ると、「学級の生徒との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりしている」は県や全国平均を上回り、「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」は県や全国と同程度であった。一方、「自分の考えを発表する際、資料や文章、話の構成などを工夫して発表している」は全国を下回っている。この課題には、文部科学省の事例にもあるように、ICT 機器を活用した資料作成やプレゼン活動を計画的に取り入れ、構成や表現の工夫を促すことが有効である。今後は、端末を用いた共同編集や相互評価、動画での発表練習など、多様な表現手段を活用した活動を通して、自分の考えを効果的に伝える力の育成を図りたい。

(2) 全国学力・学習状況調査の学校質問紙からわかる状況

各校より出された回答の中で、成果及び課題と思われる点に絞って分析しました。

①成果とみられる項目

<小・中共通>

- 調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか。(小90%、中100%)
- 総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか。(小100%、中100%)
- 児童生徒に対して、特別の教科 道徳において、取り上げる題材を児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか。(小100%、中100%)
- 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか。(小100%、中100%)
- 言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか。(小100%、中100%)

課題として考えられる項目

<小学校>

△児童が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。(使用頻度が県平均に比べて低い)

<中学校>

△生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。(使用頻度が県平均に比べて低い)

③結果を踏まえて

<小・中共通>

- 今後も、「総合的な学習の時間」において各教科等で身に付けた力を生かす視点を持ち、由布学(幼・小・中・高)に取り組みたい。
- 主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、今後も児童生徒が互いの考えを深めたり、広めたりすることができる課題解決的な展開の授業を仕組みたい。
- 各教科において、タブレットの効果的な活用についての研修を継続し、ICT機器を活用した授業を、各教科や総合的な学習の時間で積み上げていきたい。

3 今後の「学力向上」に向けて

(1) 補充学習と系統的な授業改善の継続

由布市では、これまで小・中学校ともに補充学習や放課後学習を中心とした取組を継続し、その成果は全国学力・学習状況調査や大分県学力定着状況調査の今年度の結果にも表れています。一方で、調査結果からは、学年や教科ごとに基礎的な知識・技能の定着や活用の面で課題も明らかになりました。今後は、定期的な補充学習を継続するとともに、今年度の調査結果の分析を基に、各教科の系統性を踏まえ

た授業改善を組織的に推進します。特に低学年からの基礎基本の確実な定着と、思考力・判断力・表現力等を育成する学習活動の充実を一体的に進め、児童生徒一人一人の学力向上を図ります。

(2) PDCA サイクルの確立と実効性向上

分析結果は改善に生かしてこそ意味があります。今年度の調査結果からも、これまでの取組の成果とともに新たな課題が明らかになりました。市と学校が一体となってこれらを検証し、次の授業改善へ確実につなげていきます。そのために、年度末に実施する由布市独自調査を有効に活用し、2学期以降の取組成果を可視化します。調査結果は年度によって変動する傾向が見られるため、学年単位にとどまらず、学校全体で継続的かつ組織的に改善に取り組みます。

(3) 1人1台端末を活用した学びの深化

GIGA スクール構想により整備された1人1台端末は、今年度の調査結果からも、調べ学習・意見共有・協働編集・振り返りなどの場面で効果的に活用されていることが確認できました。今後は、端末活用を補充学習や家庭学習とも連動させるなどで、個別最適な学びと協働的な学びの双方を一層充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現につなげていきます。

(4) 学校生活全体の充実

学習面と生活面を両輪として、知・徳・体のバランスの取れた児童生徒の育成に取り組みます。特別活動や道徳の充実を図り、豊かな人間性や社会性を育みます。

* 中学校では3校が共通して取り組む内容を下記のように設定し取り組んでいます。また小学校から取り組める内容については、小学校も共同歩調で取り組んできました。

内容の骨子としては、

～生徒と授業の目標や流れを共有するために～

- ① 新大分スタンダードに基づく授業改善
- ② 児童・生徒による授業評価の導入
- ③ 組織的な家庭学習の研究

～世代交代期に対応した人材育成を行うために～

- ④ 3中学校合同教科部会の実施
- ⑤ 授業のタテ持ちによる指導力の伝承

～小学校独自プロジェクト～

- ⑥ 低学年から確実に力をつけていくための「基礎基本系統表」に基づく学力定着

上記の内容を、推し進め学年間や学校間や教科間で極端な結果の差が出ないようにしていきます。